

Tsuda Today

no. 89

index

- P.① 女子中高生のためのメディア工房、サイエンスフェスティバル
P.②③ ホームカミングデー報告、第14回高校生エッセーコンテスト 他
P.④ 課外活動奨励金受給団体紹介
P.⑤ IELTS 奨学金受賞報告、ニューデリーでの津田梅子講演会開催報告 他

- P.⑥ 留学生紹介、ライティングセンターシンポジウム開催報告 他
P.⑦ 最終講義ご案内、理事会・評議員会報告、新任教職員紹介 他
P.⑧ 公開講座、お知らせ、学生の活動

発行日 2013年11月27日
発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
Tel.042-342-5113
Fax 042-342-5121
<http://www.tsuda.ac.jp/>

女子中学生、高校生の理系学部・学科への進学を促す津田塾大学の取り組み

本学では1943年に理系の学科である「理科」を設置、その後は数学科として半世紀以上にもわたり社会に有為な人材を輩出してきました。現在は数学科、情報科学科にて少人数制による密度の高い教育が行われています。近年は女子の理系分野への進学を支援する動きが広がっていますが、本学においても中学・高校生に理系分野へ関心をもってもらえるよう、さまざまな取り組みを行っています。今回は毎年行われている2つのイベントについて紹介します。

女子中高生のための情報・メディア工房 2013 開催報告

女性研究者支援センターでは、8月26日・29日に、「女子中高生のための情報・メディア工房2013」を開催しました。このイベントは、女子中高生に情報・メディア分野の魅力を伝え、同分野への進路選択を促すことを目的としています。両日とも、午前中は情報通信分野の企業を訪問して女性技術者と懇談会を行い、午後は千駄ヶ谷キャンパスにおいて、情報・メディア技術を使ったワークショップに参加します。この形式でのイベント開催は今回で3年目となりますが、今回も全国から多数の応募があり、抽選で選ばれた中学1年生～高校3年生からなる29名が参加しました。

8月26日の参加者14名は、午前中、汐留にあるソフトバンク株式会社本社を訪問し、オフィス見学を行いました。その後、千駄ヶ谷キャンパスにて、女性技術者として活躍する津田塾大学の3人のOGとの懇談会に参加し、どのような学生時代を送ってきたのか、現在の生活の様子、将来像などの話題に興味深く聞き入りました。

8月29日の参加者15名は、午前中、品川シーサイドにある楽天株式会社本社を訪問し、オフィス見学後、女性技術系社員の方を囲み、現在の仕事の内容などを伺う座談会に参加しました。

両日とも午後は、「モーションセンサーワークショップ」を行いま

した。マサチューセッツ工科大学（MIT）が開発したスクラッチというプログラミングツールと、カラダの動きを検出するMicrosoft社の入力コントローラKinectを利用したプログラミングを体験するワークショップです。「カラダで表現する絵本を作ろう!」をテーマに、二人一組で、シンデレラやかぐや姫などの童話の結末を自分たちで考え、そのオリジナルストーリーを手足の動作を使って表現するという作品作りに参加者は、楽しみながら真剣に取り組みました。その作品は<http://scratch.mit.edu/studios/245191/>で公開しています。

参加者からは「ワークショップは、いままでやった中でもかなり面白いものだった」「今日体験した様々なアクティビティが、今後自分が進路を考える時の土台になってくれると思う」「進路でこの道に進みたい気持ちが一層膨らんだ」といった感想が寄せられました。

本イベントの様子は<http://rikei.tsuda.ac.jp/>で公開していますので、ぜひご覧ください。



サイエンスフェスティバル

『理系女子でいこう!』ポスター発表参加報告

8月31日に、四女子大学（お茶の水女子大学、東京女子大学、日本女子大学、津田塾大学）共催によるイベント「女子中高生のためのサイエンスフェスティバル『理系女子でいこう!』」がお茶の水女子大学で開催され、約170名が来場しました。このイベントの目的は、女子中高生に自然科学分野に親しんでもらい、自然科学分野への進学を促すための情報提供の場を設けることです。本学からは、大学院理学研究科2名、数学科1名、情報科学科1名、計4名の学生が参加し、自身の勉強や研究をポスターにまとめ、発表しました。参加した本学学生からは以下のような感想が寄せられました。

数学科4年 千島 萌記さん

私は、3年時に勉強した、結び目と多面体の色付け問題についてまとめたものを発表しました。高校では勉強しない内容なので、参加者に分かりやすく説明するのは大変でしたが、積極的に質問してもらえたことが、とても嬉しかったです。

勉強の内容以外に、女子大の雰囲気についても質問を受けました。女

子大学特有の温かい雰囲気を伝えると、耳を傾けていた女子高生たちの目がますます輝いたのが印象に残っています。また、他大学の学生とも、学部や学科、学年を越えて交流をもてました。現在の、そして未来のリケジョたちとつながり、充実した時間を過ごしました。

情報科学科3年 河崎 文美さん

私は、授業で制作したプログラムに対して学科から授与される「3年プロジェクト賞」を受賞した音楽アプリケーション「Kinectを用いたリトミックツール」に関してポスター発表を行い、制作したアプリケーションを実際に体験してもらいました。

中高生からは、研究内容に関する質問だけでなく、情報科学科で学ぶ技術が実生活の中でどんなところに関わっているのか、また、どうして情報科学科を選択したのかなど様々な質問を受けました。中高生と交流でただでだけでなく、他大学の学生の研究や発表の様子を見ることができ、貴重な体験となりました。



不死鳥のようによみがえって挑戦し続ける

2013年度津田梅子記念会&ホームカミングデー報告

津田塾大学同窓会副会長・
国際関係学科教授

大泉 敬子

大学にとっては在生に加えて同窓生も大切な方々です。梅子が100有余年前に蒔いた女子教育の種の一粒として社会で生きてこられた方々を年に一度小平キャンパスに迎える日が、津田梅子記念会とホームカミングデーです。秋らしいさわやかさがもどった10月13日(日)、小平に卒業生たちとなつかしい先生方の声が響きました。

午前の部は、10時半から12時まで1111教室でおこなわれた記念式典です。国枝マリ津田塾大学学長が同窓生のみなさんからの日頃の支援に感謝の辞を述べ、久しぶりのキャンパスで楽しい一日をお過ごしくださいと語りかけました。津田塾大学同窓会の久保内聡子会長からは、現在の同窓会活動に特記すべき点として、支部間のネットワークの充実化、同窓生の年代別の新しいプログラムの実施、2014年4月に予定されている同窓会の法人化について説明がありました。同窓会の存在と活動の大切な意味が伝えられたお話でした。

お二人からの挨拶の後、本学礼拝委員長の早川敦子英文学科教授の司会のもとで津田梅子記念礼拝が約一時間にわたって粛々と進められました。



開会式での学長あいさつ

た。奨励者としてお招きした名古屋外国語大学学長の亀山郁夫氏は、ご自身の研究テーマであるドストエフスキーとの出会いと『罪と罰』の読み解きを通して、信と不信の間を行き来する人間のありようについて話されました。メッセージの込められた奨励が印象に残っています。

午前の部の最後は、津田梅子賞と高校生エッセー・コンテストの結果報告です。2013年度の津田梅子賞については、学内選考委員である津田塾大学の新本史育学長補佐(国際関係学科教授)から残念ながら今年度は「該当者なし」となったことが報告されました。続いて、

今年度で14回目を迎えた高校生エッセー・コンテストの審査結果が、審査委員長の田近裕子英文学科教授から報告されました。今回のテーマは「～勇気と尊厳をもって行動した～ローザ・パークスに手紙を書こう」です。米国の公民権運動史上に重要な役割を果たしたローザに全国から寄せられた手紙の総数は769通。最優秀賞1名、優秀賞7名、特別賞1名が選ばれ、最優秀賞の渡邊倫子さん(福岡県 明治学園高等学校2年)がビデオレターで自身の手紙を朗読してくださいました。表彰式のその日が高校の学園祭と重なり、大切な役割を担っているため小平に足を運ぶことができなかった渡邊さんに、会場から惜しめない拍手が送られたことは言うまでもありません。

午後には同窓生たちのシンポジウム「塾女たちの絆—明日への希求」が開催されました。50周年の楠本くに代さん、40周年の高橋陽子さん、30周年の大澤幾子さん、20周年の小野さくらさんが、英文学科の吉田真理子教授の司会のもとでそれぞれの人生を語り、挑戦と社会参加の足跡を振り返って、会場を津田スピリットで満たしてゆきます。紆余曲折を経てなお不死鳥のようによみがえる同窓生の生き方に感嘆の声と拍手が送られたひとときでした。この日は60周年までの各同窓会や、津田梅子資料室の「津田梅子とプリンマー大学」をテーマとした企画展、華道部や茶道部のパフォーマンスなどもあり、秋のキャンパスでの楽しい一日が暮れてゆきました。

シンポジウム
「塾女たちの絆—明日への希求」

華道部による創作華展

津田梅子記念礼拝(要約)

ラスコーリニコフの「復活」ヨハネによる福音書 第11章38-44節

名古屋外国語大学学長
亀山 郁夫氏

『罪と罰』とは、14歳の夏に初めて出会い、大学3年の夏にロシア語で再読し、50歳代に入り翻訳のために、三度の出会いを重ね、主人公と一体化体験、深い内向的気分、新しい発見等を経験してきた。主人公ラスコーリニコフは高利貸しの老女とその義妹を殺害するが、ついに後悔の念に苦しめられることがない。娼婦ソーニャと出会い、彼女の導きで自首するようになるが、よく読むと、彼の心のうちに罪の意識は生まれておらず、ただ、孤独と恐怖があるのみである。悔いとは、他者の信頼に対する裏切りから生まれるが、彼には、その他者が存在しない。『罪と罰』は、キリスト教を解しない読者にも分かるが、信じることを通してしか分からない世界もある、と感じる。『罪と罰』のほぼ中間部に、ラスコーリニコフがソーニャの部屋を訪ね、

聖書から「ラザロの復活」の場面を読んでもらう場面がある。そこでは、死後四日経ち、腐敗し始めていたラザロが、イエス・キリストにより甦る。作者は、ラザロとラスコーリニコフを二重写しにし、キリスト教による救済に重点を置いた。だが、重篤のラザロのもとにすぐにも駆けつけなかったキリストの行為に、神は本当に存在するのか、との問いにも苦しめられていた。このように、ドストエフスキーは「信」と「不信」の間で引き裂かれていた。ただ、終生、キリストの実在性に対する信仰は揺らぐことがなく、彼の文学が、つねに自己犠牲の教えに貫かれているのも、まさにそこに由来する。以上をもって、今日の奨励としたい。



～勇気と尊厳をもって行動した～ ローザ・パークスに手紙を書こう

第14回 高校生エッセー・コンテスト結果発表

10月13日(日)、津田梅子記念会において、第14回高校生エッセー・コンテストの選考結果発表が執り行われ、当日は最優秀賞受賞者の渡邊さんが、ビデオレターにて受賞作品を朗読されました。

応募総数: 769編 女子504名/男子265名
応募言語: 英語作品638編/日本語作品131編

最優秀賞1名(敬称略)

渡邊 倫子 明治学園高等学校2年 (福岡県)(日本語)

優秀賞7名(敬称略 アルファベット順)

川勝 博 渋谷教育学園渋谷高等学校1年 (東京都)(英語)

根本 莉甫	聖徳大学附属女子高等学校1年	(千葉県)(日本語)
佐藤 彩映	鎌倉女学院高等学校2年	(神奈川県)(英語)
柴田 涼子	国際基督教大学高等学校1年	(東京都)(英語)
玉川 亜咲実	渋谷教育学園幕張高等学校2年	(千葉県)(英語)
杼原 和希	高田高等学校2年	(三重県)(英語)
山崎 あかり	清泉女学院高等学校1年	(神奈川県)(日本語)

特別賞1名(敬称略)

有馬 拓未 東京学芸大学附属国際中等教育学校1年 (東京都)(英語)

最優秀作品及び優秀作品は、本学ウェブサイトに掲載しています。

第14回 高校生エッセー・コンテスト最優秀作品紹介

明治学園高等学校2年
渡邊 倫子

ローザ・パークスさん、今の世界をあなたはどのような気持ちで見えていますか。夏の初めにあなたの自伝を拝読し、あなたの勇気と行動力に私は感動しました。本当はすぐにでも手紙を書きたかった。ですが、私にはどうしても出来ませんでした。心に大きな不安があったからです。

2001年、9月末。父の仕事で私達家族はあなたの祖国アメリカの砂漠の町に引っ越しました。アメリカを同時多発テロという悲劇が襲った直後でした。楽しい旅行の思い出もたくさんありますが、私の記憶の底に重く横たわっているのは空港での出来事です。荷物検査で、私達家族だけが残され、私と姉のスニーカーの中敷きの下まで、1歳だった妹の紙おむつの中まで調べられた時の背筋のぞとした感覚が、今でも消えないのです。人種の違いによってテロを疑われた時の言いようのない悲しみ。あなたが逮捕されることも恐れずに守ろうとしたものが、現代の社会の中でどうなっているのか。差別をされる側の立場の人々が、今も様々な所で悲しみに耐えている現実、胸が痛んでいたのです。

そんな中、私の心の迷いを吹きとばしてくれるような出会いがありました。2013年7月、ニューヨークの国連本部で行われた、パキスタンの16歳の少女、マララ・ユスフザイさんの演説をニュースで聴いたのです。女子教育の必要性を訴えていたマララさんは、イスラム武装勢力に頭を撃たれても、自分の主張を曲げることなく、真っすぐ

な瞳で力強く訴えかけます。「タリバーンは教育や女性の力を恐れている。銃弾は我々を黙らせることはできない。」「教育が唯一の解決方法です。」ローザ・パークスさんの勇気と行動力が、国境を越え、世代を越えて、現代に息づいている姿を目の当たりにして、私の心は震えました。マララさんはさらに訴えます。「タリバーンやすべての過激派の子供たちにも教育を受けさせたい。」彼女の視野の広さと思慮深さに、私ははっとしました。

夜が明けたばかりの新鮮な空気の中、庭の雑草取りをするのが夏の間の私の日課です。取っても取っても、少し油断して放っておくと、雑草はすぐに元どおりにはびこります。ローザさんやマララさんが犠牲を恐れず主張してつみ取ったはずの差別の芽も、庭の雑草のように、人々や社会が油断し、気を緩めてしまうと、残っていた根が息を吹き返し、社会にはびこっていくのだと思います。マララさんが言うように、差別をする側の人にこそ教育が必要であり、根ごと枯らしていく努力を積み重ねていくことが大切だと思います。

差別の芽をつみ取り続けることは、地味で小さな作業の積み重ねかもしれませんが、世界で今、何が起きているのか。何を訴えているのか。それらを少しでも見通し、聞き取ることができるよう、私自身の精神と体をしっかり磨きたいと思います。ローザさん、見ていて下さいね。

第14回 高校生エッセー・コンテスト 講評

審査委員長・英文学科教授
田近 裕子

2013年度高校生エッセー・コンテストのテーマは、米国の公民権運動を推進する上で大きな影響力を持った一人の女性ローザ・パークスに手紙を書こうというものでした。仕事帰りのバスの中で、アフリカ系アメリカ人のパークスは白人のバス運転手から白人に席を譲るように言われました。当時の南部諸州では人種を隔離する法律があったのです。しかし、その日パークスは、これを拒否して逮捕されてしまいます。このテーマは中学・高校の教科書にも取り上げられているため、総数769編の作品が寄せられました。そのうち英語が638編、日本語が131編で、高校生の思いが多数届けられたことは喜ばしいことでした。ほとんどの作品が、差別を自らの体験や身近な事柄を通して自分に引きつけて生き生きと語っていたことが良かったと思います。ただし残念だったのは、十分な推敲がなされず、ことばの誤りが多かったものも見られたことです。

最優秀賞の渡邊倫子さんは、同時多発テロ直後のアメリカの空港においてご自分の家族が人種の違いゆえにテロリストに疑われ、一家族だけ荷物検査に残されて徹底的に調べられた経験を通じて、その時感じた恐怖や人種差別をされる側の悲しい気持ちを述べています。渡邊さんは、この衝撃的な思いゆえに、ローザ・パークスへの手紙がなかなか書けなかったという心の葛藤も記しています。しかし命の危険を

冒しても女性への教育の必要性を訴えたパキスタンの少女、マララ・ユスフザイさんの、差別する側にも教育が必要であるという勇気ある国連での演説に触発され、差別の芽を摘まなければならないと思に至る、その心の動きが率直な文章でまとめられています。自分で考え抜いたことを自分のことばで語り、最優秀賞にふさわしい説得力のある整った作品に仕上げられています。

優秀賞の英語5作品と日本語2作品は、いずれも差別について自身の経験と関連付けてローザ・パークスに切々と語りかけるものでした。自分が受けた人種ゆえの、あるいは身体的特性に対する差別、アメリカ先住民ナバホ族の女性や世界各地の人種や社会背景の違う若者との出会いから学んだこと、海外のセミナーに参加してリーダーシップについて考えたこと、差別のない世界を宇宙開発に求めようとする夢、歴史を振り返り、差別のない世界を地道に模索しようとする決意など、若々しい真摯な気持ちが力強い表現で綴られ、審査員の心に響きました。

最後になりますが、今年度の津田塾大学高校生エッセー・コンテストに応募していただきました皆さん、また、協力していただきました皆さんに改めて感謝の気持ちを表したいと思います。

2013年度津田梅子賞 選考結果報告

2010年、津田塾大学創立110周年を記念して創設した「津田梅子賞」も、今年4年目を迎えました。この賞は津田梅子のバイオニア精神にちなみ、女性の未来を拓く可能性への挑戦を顕彰することを目的としています。

2013年度は12の個人・団体からの推薦がありましたが、選考の結果、残念ながら今年度は「該当者なし」となりました。

2013年度 課外活動奨励金受給団体活動報告

Tsuda Today 88号では2013年度の課外活動奨励金の受給が決定した団体名一覧を掲載しましたが、今号ではその中の幾つかの団体に、その活動報告を寄せてもらいました。

津田塾大学弦楽合奏団 アンサンブル・フィオリータ

英文学科3年 田村 菜々

こんにちは。津田塾大学弦楽合奏団アンサンブル・フィオリータです。私たちは、現在現役部員5名（4年生除く・留学生1名含む）で活動しています。毎週水曜日・土曜日に、自主的な練習やトレーナー、指揮者の先生を招いての練習を行っています。人数が少なく厳しい状況ではありますが、年2回の定期演奏会ではOGや賛助の方にも一緒に演奏していただき、成功をおさめています。11月の津田塾祭では、生演奏喫茶を企画し、お客様には私たちの弦楽四重奏の生演奏を聴きながら、お茶やお菓子をお楽しみいただいています。また入学式では毎年、式の前奏をさせていただいております。アットホームな雰囲気の中、音楽に真剣に取り組む意識を共有しながら、練習に励み、忙しい毎日ではありますが、音楽に満ちた充実した日々を送っています。指導してくださる先生方や仲間、なにより私たちの演奏を楽しみに聴きにきてくださる方への感謝を忘れず、これからもがんば

ばっていきます。なお、12月15日（日）に定期演奏会を催します。詳しくは当団HPをご覧くださいけると幸いです。



グラシェールスキーチーム

国際関係学科2年 浅井 美帆子

私たちグラシェールスキーチームは、今年で設立から44年目を迎えた長い伝統のある基礎スキーサークルです。基礎スキーとは、スピードを競うのではなく、より正確で合理的な、そしてより美しい滑りを目指すスキーのことで、現在は一橋大学、津田塾大学に所属している約60名の部員で活動しています。

スキーができない4月から11月のオフシーズン中は、週に2回行う陸上トレーニングが主な活動となります。また、サークルのコミュニケーションを深めるための多くのイベントもあり、自由な雰囲気の中で、楽しく日々の活動に取り組んでいます。

一方で、12月から3月にかけてのシーズン中は、スキー検定合格や全国学生スキー大会での入賞を目標に、切磋琢磨しながら熱い冬を過ごします。部員のほとんどがスキー初心者からのスタートですが、数多くの合宿を通じて、先輩から指導を受けたり、部員同士で自分の滑りを撮ったビデオを見ながら意見を出し合ったりすることで、驚くほど上達することができます。

楽しむときには思い切り楽しみ、頑張るときにはとことん頑張る、そんなメリハリある仲間から刺激を受けながら過ごす日々は、毎日が充実感に満ちていて、わたしはグラシェールで過ごす時間が大好きです。

もうすぐシーズンがはじまります。私たちが思い切りスキーに打ち込めるのも、日頃活動を支えてくださっている多くの方々のお陰であるということを忘れずに、チームとして昨シーズン以上の成果が残せるよう、頑張りたいと思います。



競技ダンス部

国際関係学科3年 中山 歩

こんにちは。私たち競技ダンス部は津田塾大学、一橋大学、東京女子体育大学、東京農工大学の43名で活動しています。「そもそも、競技ダンス部って何をやるの?」と思われる方も少なくないのではないのでしょうか。社交ダンスがパーティなどで社交を目的として行われるのに対して、競技ダンスは試合で技術や美しさを競います。私たちは、月曜日、木曜日の週2回、一橋大学の体育館で練習会を開いていて、上級生が1年生に指導するという形で行っています。部員はみんな競技ダンスを初心者から始めていて、1年間かけて、ワルツ、ルンバ、クイックステップ、チャチャチャ、スローフォックストロット、サンバ、タンゴ、そ



してパソドブレといった8種目のダンスを踊れるようになります。競技ダンスの試合は毎月のように行われていますが、一生懸命練習してきた成果が実り、今年の9月に行われた、第36回松前重義杯争奪学生競技ダンス選手権大会では31校が出場する中、見事団体優勝を果たしました。これからも日ごろ支えてくださっている多くの方に感謝しつつ、練習に励み、良い結果を出すことで恩返しができるよう、頑張っていきたいと思います。応援、よろしくお願いします!

IELTS 奨学金 2013 (UK 奨学金) 受賞

英文学科4年の高橋ひかるさんが、ブリティッシュ・カウンシル主催のIELTS 奨学金 2013を受賞しました。この奨学金は留学支援を目的として、高橋さんが受賞した UK 奨学金と北米奨学金の2部門に分かれ、選考ではIELTS のスコアだけではなく、留学先の学びをどのように社会に還元するかというビジョンも重視されます。今年は過去最高の319名の応募者から、高橋さんを含めた9名が2部門合わせて選ばれました。

現在エジンバラ大学へ留学中の高橋さんですが、7月29日に英国大使館で行われた授賞式での英語スピーチをここに紹介します。

Ladies and gentlemen,

I am very honoured and happy to be here today.

I am a fourth-year student at Tsuda College. I'm going to study at the University of Edinburgh as an exchange student, with a special interest in Psychology and Biology. I would like to thank everyone who helped me gain such a wonderful opportunity.

My interest in human psychology has been stimulated by an experience related to Fukushima. Last year I volunteered to translate poems which were written by children there. The experience inspired me to study human emotions because the translation required me not just to change words. I also had to interpret what the writers intended. For example, the place name "Fukushima" appeared in their poems many times, but each "Fukushima" had a different meaning. There was "Fukushima" expressing fear, "Fukushima" expressing

attachment, and "Fukushima" expressing hope. So I had to translate these intentions, too, and this experience has increased my interest in human feelings, especially with relation to the way stressful events can influence one's sense of identity.

Studying abroad seems very challenging because I have never before lived in an English-speaking country. However, my language preparation and my deep interest in human psychology will help me make the most of this chance. I sincerely hope that this wonderful study-abroad opportunity will not only be a big step toward graduate school study for me myself, but will also allow me to contribute to others.

Thank you again.



授賞式で賞状を受け取る
高橋さん

学生報告

ふくしまからの／ふくしまへ贈る光 — 影絵でつなぐ希望の道 —

英文学科4年 小川 真都果

津田塾大学学生有志によるピースアートプロジェクトは、「平和」という言葉の意味を考え、平和の種まきとなる活動を2000年より行ってきました。今年は、影絵というアートに平和への祈りを込め、福島を支援する活動を行っています。影絵の光は人の心を癒し、温かくしてくれます。私たちはこの光を福島にも灯したいと考えました。

8月には、福島県二本松市の仮設住宅と飯舘村の村民が全村避難している福島市飯野町を訪れ、子どもたちと影絵を制作しました。くりぬいた箱にトレーシングペーパーと色とりどりのセロハンを切り貼りして、裏側から光を灯します。二本松市では、幼児から中学生までの子どもたち16人と交流を深めながら影絵を作り、保護者や近所の方々にも作



完成した影絵を見る子どもたち

品を見て頂きました。自分の作品を誇らしげに発表する姿、拍手を頂いた時の嬉しそうな表情が印象的でした。飯野町では「飯舘村を影絵で表現しよう」をテーマに、飯舘村学童保育の生徒13人が、緑豊かな村の風景や通っていた小学校、飼っていた牛の姿など、それぞれの飯舘村を心を込めて表現しました。影絵を作り、そこに灯る美しい光に触れた経験が、未来を生きる子どもたちにとって温かい希望の光となることを願っています。

11月の津田塾祭では、福島の子どもたちが制作したこれらの影絵、本活動を知ったドイツの中学生たちが福島に想いをはせて作った影絵の展示を行いました。来場者の方々には、子どもたちの想いに対する応答として、会場で影絵の制作をして頂きました。そして今度はその作品を福島に贈ることで、影絵による希望の道をつないでいきたいと考えています。

ニューデリーで開催された The Establishment of Modern Women's Education in Japan: The Life and Work of Umeko Tsuda (開催報告)

国際交流基金 ニューデリー日本文化センター 山村 真智子 (国際関係学科卒業生)

強烈な乾燥と砂埃、そして喧噪に包まれた街。国際交流基金ニューデリー日本文化センターに勤務してから2年が経ちました。

当センターは、インドにおいて様々な日本文化紹介、日本語教育、知的交流事業等を行っています。その一環として講演会シリーズがあり、本年8、9月に、津田梅子先生に関する講演会「The Establishment of Modern Women's Education in Japan: The Life and Work of Umeko Tsuda」(講演者: アスミタ・フルヤルカル博士)を開催しました。

この講演会は、昨年インド南部のバンガロールでシンポジウムを視察した際、偶然アスミタさんと出会ったことが契機となり実現しました。彼女が流暢な日本語だけでなく、津田梅子先生について研究しコーネル大学で博士号を取得したということに驚き、また感激しました。

講演会は、当センターとデリー市内の女子大学ガルギ・カレッジの

2か所で行われ、多くの市民や学生が出席しました。明治時代の女性をとりまく環境や日本の女子教育について初めて知ったという人がほとんどですが、インドにも女性の社会的立場や教育をめぐる問題があり、聴衆は各自の問題意識や視点から、講演内容に対する理解を深めていました。

インドは、EUをほぼカバーするほどの広い国土に約12億人が住んでいます。インドでどのように日本を発信するのか。これからも試行錯誤が続きます。



講演会の様子

BILLBOARD

ライティングセンター シンポジウム開催報告

「日本の大学教育におけるライティングセンターの可能性—米国の先進事例をふまえて」と題したシンポジウムが8月3日、本学小平キャンパスで開催され、全国約30大学・高校から教職員や学生ら78名が参加しました。

ライティングセンターは米国で生まれ、近年日本の大学にも広まっています。本学は他大学に先駆け2008年からライティングセンターを設置し、学生の書く力を磨くさまざまな活動を行ってきました。2012年度には「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」が文部科学省大学間連携共同教育推進事業に採択されています。本学と関西大学が連携し、日本のライティングセンターの「モデル」を構築する取組です。本シンポジウムもこの一環として開催され、関西大学にも同時中継されました。

基調講演では、プリンマー大学のレイモンド・リケッツ氏が同大の初年次セミナーを紹介し、書くことは「考える」力を養うためのプロセスであり、自分を変えていくための実験であると指摘しました。ウェルズレー大学のジェニー・ジョンソン氏は、同大ライティングセンターの役割や実

践を話し、学生チューターによる「ピア・チュータリング」の重要性を説きました。桜美林大学の井下千以子氏が日本のライティング教育の現状を紹介した後、関西大学と本学の取組責任者も交えて、日米のライティングセンターが抱える共通の課題や可能性について話し合いました。

会場からもたくさんの質問があがり、関心の高さがうかがえました。本学ライティングセンターは今後も先進事例から学びながら、学生の書く力、考える力、そして生きる力を支援していきます。



新任教員紹介



国際関係学科教授
高垣 マユミ

主な担当科目 教育心理学、教職実践演習、2年セミナー

専門は教育心理学の「教授・学習領域」です。学習過程を、多角的な視点（認知・言語・情動・動機づけなど）から読み解きつつ、学習そのものを個に閉じた営みとしてではなく、個体と環境（社会・文化・システムなど）との相互調整的営みとして捉え研究しています。女子英学塾の時代から100年以上にわたり、優れた実績を有する津田塾大学の教員養成に携わることの責任を深く受け止め、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を講じることで、All-round Womenの資質を備えた女性教員の育成に取り組んでまいります。

寄付者ご芳名

(2013年10月31日現在 順不同 掲載希望者のみ)

図書館機能拡充のため

片倉 邦雄 様
(故 片倉 もとこ 様 [旧姓 新谷素子 1962年卒]
ご夫君) 5,000,000円

教育研究充実のため

大塚 昌子 様 5,000,000円
服部 悦子 様
(故 服部禮次郎元理事長ご令室) 10,000,000円

文学研究科博士課程研究奨励費資金として

鷺見 八重子 様 1,000,000円

海外留学のため

武田 美代子 様 (遺贈) 10,000,000円

教育研究のため

津田塾大学生協同組合 様 124,000円
津田塾大学卒業40周年同期会 (昭和48年卒業生) 様
80,000円
齊藤 みどり 様 50,000円
穴沢 素子 様 500円

東日本大震災被災学生支援募金

阿久津 昌司 様
厚見 正充 様

服部 英二 様
稲庭 瑞穂 様
近藤 志郎 様
奈良 俊子 様
齊藤 治人 様
齊藤 浩司 様
高橋 等 様
津田塾大学卒業50周年同期会 (昭和38年卒業生) 様
津田塾大学同窓会静岡支部 様 他 133名様

教育振興資金

阿久津 昌司 様
厚見 正充 様
服部 英二 様
稲庭 瑞穂 様
伊藤 章夫 様
近藤 志郎 様
永山 宏一 様
中野 修 様
齊藤 浩司 様
高橋 等 様
竹入 一芳 様 他 103名様

育児と学業の両立支援

齊藤 治人 様 他 5名様

ようこそ、津田塾大学へ

2013年9月、5名の交換受入生が津田塾大学に入学しました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

写真：左端より

エラ・ボナー	数学科 スペルマン大学 (米国)
ブリオナ・ジョンソン	国際関係学科 スペルマン大学 (米国)
保田 真里沙	国際関係学科 ミネソタ州立大学モアヘッド (米国)
クリセルダ・テソロ	国際関係学科 フィリピン大学 (フィリピン)
アンナ・カールソン	国際関係学科 ノースダコタ州立大学 (米国)



9月に入学した交換受入生の皆さん

最終講義のご案内

今年度で定年を迎えられる教員の最終講義を、以下のとおり予定しております。在学生、卒業生問わず、ぜひご出席ください。

英文学科 島村 礼子 先生

「語と句と名付けのはたらき」

- 日 時：2014年1月21日（火）2限 10:30～12:00
- 場 所：中島記念ホール（7101）
- お問い合わせ：英文学科事務局 Tel. 042-342-5150

国際関係学科 加納 弘勝 先生

地域研究と世界諸地域

— 「地域の広がり」と「文化的なモノ（ビーズと織物）」

- 日 時：2014年1月16日（木）2限 10:30～12:00
- 場 所：特別教室
- お問い合わせ：国際関係学科事務局 Tel. 042-342-5155

国際関係学科 草津 攻 先生

プリズムとリズムの交差

— 文化・社会・人間のつながり —

- 日 時：2014年1月21日（火）3限 13:00～14:30
- 場 所：1111 教室
- お問い合わせ：国際関係学科事務局 Tel. 042-342-5155

※数学科 福原真二先生も退任されますが、最終講義は行いません。

津田塾大学 SNS 公式アカウント運用開始

津田塾大学企画広報課は、2013年10月1日より、Facebookに大学公式ページを開設し、情報発信を開始しました。大学で定めたFacebook運用ポリシーに則り、Webサイトではお知らせしきれない大学の細かな新着情報やイベント情報をお伝えしていきます。

アカウント名称：津田塾大学 — Tsuda College
URL：https://www.facebook.com/Tsuda-College

AV ライブラリーの全面的改修

本学では、創立以来の伝統を生かしながら、映像やネイティブスピーカーの音声を積極的に導入するなど、常に時代に先駆けた方法で外国語教育を行っています。そのなかで非常に大きな役割を担っているAVライブラリーの改修が9月18日に完了しました。

AVライブラリーは1990年の5号館建築時に併設されて以来、本学の教育に必要な映像・音声資料の体系的収集と授業での円滑な利用に努めてきました。また、視聴覚設備を合わせ持つことによって、授業の延長線上にある学生の自学・自習機能の充実を図ってきましたが、



AV ライブラリー改修後

近年は提供すべき資料の形態がアナログメディアからデジタルメディアへ移行するなど、さまざまな変容を遂げています。そこで、この時代の変化に対応するために、情報通信技術（ICT）も取り入れたマルチメディア設備への転換と、メディアを活用した自律的学習を支援する環境を整備しました。

理事会・評議員会報告

▶ 第220回理事会 議題 2013年7月26日

【審議事項】

- 1 千駄ヶ谷キャンパスの新教学組織に関する件

【報告事項】

- 1 その他

▶ 第221回理事会 議題 2013年9月27日

【審議事項】

- 1 2014年度入学学費に関する件
- 2 2013年度教職員給与に関する件
- 3 千駄ヶ谷キャンパスに関する件

【報告事項】

- 1 その他

▶ 第164回評議員会 議題 2013年10月25日

【報告事項】

- 1 学事報告
- 2 千駄ヶ谷キャンパスの新教学組織に関する件
- 3 その他

▶ 第222回理事会 議題 2013年10月25日

【審議事項】

- 1 千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社の取締役改選に関する件
- 2 2014年度在学生学費に関する件
- 3 千駄ヶ谷キャンパスの新教学組織に関する件

【報告事項】

- 1 その他

受賞おめでとうございます。

国際関係学科の新本史育先生が制作に関った書籍、『Sprechendes Wasser / 話す水』（Seession-Verlag 2012）が2013年スイスのベルン州文学賞を受賞しました。

日本の詩人谷川俊太郎氏と、スイスの詩人ユルク・ハルター氏との間で、Eメールを介して交わされた連詩を、日本語とドイツ語2つの言

語で本にまとめるという珍しい形式の本で、新本先生は日本語訳を担当されました。賞は、二人の詩人、日本とドイツそれぞれの翻訳者、及びオーガナイザーという5名からなる制作チーム全体に対して贈られたものです。

2014 年度 一般入学試験日程

	A方式（大学独自入試）			B方式（センター試験+個別学力試験）			C方式（センター試験のみで選考）		
	出願期間	試験日	募集人員	出願期間	試験日	募集人員	出願期間	試験日	募集人員
英 文 学 科	2014年 1/6（月）～ 1/28（火）	2/6（木）	110	2014年 1/6（月）～ 2/18（火）	3/1（土）	30	2014年 1/6（月）～ 1/17（金）	個別試験は 実施しません	40
国際関係学科		2/5（水）	155		2/28（金）	25			30
数 学 科		2/7（金）	25		2/28（金）	5			5
情 報 科 学 科		2/7（金）	25		2/28（金）	5			10

IF YOU'RE INTERESTED...

公開講座のご案内

ウェルネス・センター公開講座

お問合せ:ウェルネス・センター TEL042-342-5147
場 所:小平キャンパス

「希望 — Hope —」第5回 希望の力 — 響きあう人生と歴史

- 講 師: 草津 攻氏 (国際関係学科 准教授) ■会 場: 2号館 2101 教室
 ■日 時: 2013年12月11日(水) 13:00~14:30 ■聴講料: 無料

ライティングセンター公開講座

お問合せ:ライティングセンター TEL042-342-5129
場 所:小平キャンパス

女性のリーダーシップから学ぶ〜シリーズ9

「私の歩んできた道〜マスコミから国連まで」

- 講 師: 有馬 真喜子氏 (UN Women (国連女性機関) 日本国内委員会理事長/フジテレビ番組審議会委員長)
 ■日 時: 2013年12月4日(水) 16:20~17:50
 ■会 場: 7号館 7101 教室 ■参加費: 無料 ■申 込: ライティングセンター WEB サイトより <http://twc.tsuda.ac.jp> まで

総合2013 “みち”を探して〜あなたはどうか生きる?〜

お問合せ:教務課 TEL042-342-5130
場 所:小平キャンパス

- 日 時: 授業期間中の毎週木曜日 13:00~14:30 ■場 所: 新館特別教室
 ■聴講料: 不要 ■対 象: どなたでもご参加いただけます。
 ■聴講手続き: 申し込み不要。本学正門守衛所にて住所・氏名等をご記入ください。
 先着100名。満席の場合、入場をお断りすることがあります。

2013年度(後期)12月以降の講演者

- 12月5日 未定 12月12日 宮崎 信恵氏 (映画監督)
 12月19日 椎名 誠氏 (作家) 1月16日 片山 真理氏 (アーティスト)

お知らせ

クリスマス礼拝

- 日 時: 2013年12月11日(水) 14:40~16:00
 ■場 所: 津田梅子記念交流館内 岡島記念チャペル
 ■説教者: 陣内 大蔵 (日本キリスト教団東美教会牧師、シンガーソングライター)
 ■メッセージ: Holy Christmas に向かって

クリスマスイルミネーション点灯

本学の冬の風物詩、ハーツホン・ホール(2001年東京都選定歴史的建造物指定)
 前のヒマラヤ杉が今年もライトアップされ、キャンパスに彩りを添えます。



◆点灯期間: 12月3日~12月25日
 16:30~21:30

クリスマス礼拝連動企画展

ふくしまからの／ふくしまへ贈る光 — 影絵でつなぐ希望の道 —

津田塾の学生が福島の子どもたちと共に作成した影絵、さらにドイツの中学生が福島に思いをはせて作成した影絵の展示を行います。

- 期 間: 2013年12月5日(木)~12月19日(木)(土日は休館) ■場 所: 津田梅子記念交流館内 スペース1
 ■時 間: 9:00~16:00 ■観覧料: 無料
 ■主 催: 津田塾大学 ■共 催: 津田梅子記念交流館、ピースアートプロジェクト

津田梅子記念交流館プログラム

お問合せ:津田梅子記念交流館事務室 TEL042-342-5146
場 所:小平キャンパス

「パイプオルガンと歌によるクリスマス・コンサート」

- 日 時: 2013年12月11日(水) 17:00~18:30 (16:30開場) ■場 所: 津田梅子記念交流館内 岡島記念チャペル
 ■参加費: 無料(申込要)

学生の活動

第十一回津田塾大学梅子杯争奪 学生英語弁論大会のお知らせ

「津田塾大学梅子杯争奪学生英語弁論大会」(通称:梅子杯)とは、津田塾大学英語会(TESS)が主催する大学生による英語スピーチの全国大会です。今年も例年同様、全国各地の大学から多くの応募を頂き、予選審査を突破した8名のスピーカーを招いて開催致します。

第11回目となる本大会のコンセプトは“Be a Star”です。夜空に輝く無数の星たちのように、スピーチをするスピーカーも、星のように未来を明るく照らす光になってほしいという願いを込めて設定しました。

例年レベルの高い大会として、また女子らしいホスピタリティ溢れる大会として多くの方々から高い評価を頂いております。スピーチの大会にいらしたことが無い方も、十分に楽しんで頂けると思います。

昨年度、第10回というひとつの大きな節目を迎えた梅子杯。今年度の第11回大会は梅子杯にとって新たなスタートでもあります。梅子杯の新たなスタートと、スピーカーたちの熱い思いをぜひご覧いただければと思います。



昨年の参加者の皆さん

- 開催日: 2013年12月7日(土) ■タイムテーブル 11:00開会(10:30開場) 詳しくはHPをご覧ください。
 ■会 場: 小平キャンパス 新館特別教室 ■HP <http://11thumekocup.jimdo.com/>
 ■お問い合わせ: umekocup2013@gmail.com